

レセプト作成支援ソフトの医事課業務に対する有用性について

－査定率と残業時間からの検討－

常味 さなえ¹⁾、高草木 聖子¹⁾、岡崎 智一¹⁾

亀井 浩由¹⁾、大嶋 美奈子¹⁾、美原 盤²⁾

1)脳血管研究所美原記念病院 事務部 医事課

2)脳血管研究所美原記念病院 院長

[はじめに]レセプト作成は医事課における重要な業務一つであり、その精度は病院運営に直結する。当院のレセプトの査定率は近隣の病院と比較して高かったため、平成26年8月よりレセプト作成支援ソフト(支援ソフト)を導入した。今回、支援ソフトの有用性について、レセプトの査定率と残業時間の面から検討したので報告する。

[方法]当院のレセプト数は入院、約330件/月、外来、約3000件/月であり、事務職員8名が担当している。支援ソフト導入前は、スタッフ総出で月末から月初め約1週間は全てのレセプトの点検を手作業で行っていた。導入後においても同様の業務体制であったが、支援ソフトを活用しエラー表示の出たレセプトを重点的に点検するよう業務内容を変更した。支援ソフト導入前の平成26年2月から7月の6ヶ月と導入後の平成26年8月から平成27年1月の6ヶ月におけるレセプトの査定件数、査定金額、およびレセプト残業時間について調査した。

[結果]査定件数は、支援ソフト導入前6ヶ月においては平均170件/月、査定率は0.66%/月、導入後の6ヶ月においては137±18件/月、査定率は0.67%±0.30/月、また、査定金額に関しては、支援ソフト導入前190±80万円/月、0.67%/月、導入後110万円±50/月、0.41±0.20%/月であり、何れも有意に減少していた($p<0.05$ 、 $p<0.05$)。また、点検業務に係る残業時間は、導入前では15時間±2/人/月、導入後では10時間±3/人/月であり、有意に短縮していた($p<0.05$)。なお、支援ソフトに関わる支出は導入までに75万円、維持費に3万円/月と想定された。

[考察]レセプトの精度はスタッフ各々の技量や経験に左右され、費やす時間も相応にかかっていた。支援ソフト導入により、標準化された点検を行うことが可能となり、短時間で質の高いレセプト作成を実現することができた。

[結語]支援ソフトの導入は、レセプト作成の精度および業務の効率性の向上に有用である。